

日本中国学会会報

NIPPON CHŪGOKU GAKKAI

1995年(平成7年)

11月15日

第2号

〒113 東京都文京区湯島1-4-25 斯文会館 電話 03-3251-4606
FAX 03-3251-4853

第四十七回大会を終えて

理事長 石川忠久

“京洛の秋”には一寸早かったが、好天に恵まれ、大会は大盛況のうちに終わることができた。開催に当たった立命館大学の笈文生代表を始めとする皆さんに厚く御礼申し上げる。

総会では、懸案の学術専門委員の“若返り”の規約改正が通った。これは、近年、科学研究費配分の審査委員の年齢制限が厳しくなった(文系65、理系60歳)のに加え、一度選任されると再任されなくなったことによる。現行の選挙方法ではこれに対応しにくいための改正だが、果たしてどの程度実効が上がるかは、やってみないとわからない。

近ごろ、三題漸のようだが、この“若返り”と並んで、“女性”と“国際”が社会的要請として対応を迫ってきている。

“女性”とは、各種の委員会に女性を一定の割合で必ず入れる、ということ。学術会議でも、前期来「女性研究者の地位向上」の問題は重要課題となっている。が、当の学術会議にして、女性会員が三人から今期は一人に減る始末(定員210人)。本学会では、なんと創設以来一人の女性役員も出ていない。来春(1月)の専門委員の改選に、“女性”問題がどう是正されるだろうか。

“国際”とは、学術交流であるが、最近は漢字データベース化の問題のように、情報の交流が喫緊の課題となっている。本学会でもこれに対応して、「情報処理委員会」を今年度より発足することとした。

今度発足したもう一つの委員会がある。それは「創立五十年記念事業委員会」である。本学会は昭和24年(1949)に創立されたので、平成11年(1999)が五十周年となるが、開催地域と当番校、日時などの関係で、数えの50年の平成10年10月10日(土)に記念式典及び行事を挙行することとした。語呂合わせもよい。また、学会報も第50号となる。当番校は早稲田大学にお願いすることに内定した。早稲田大学の皆さんには今から御苦勞を多謝する次第である。

両委員会の構成員は別記の通りである。両委員会とも、これからが大変である。委員の方々にはよろしく御尽力をお願いすると同時に、会員各位におかれても、ご意見なりアイデアなりをお寄せ下さるようお願いしたい。

本学会は、現在1994名の会員を擁するまでになった。しかし、そのことは必ずしも会の隆盛を意味するものではない。というのは、依然として科学研究費の申請件数は少ないし、選挙の投票率は低い。学会報への応募もまだまだ多いとは言えないし、質も昔より高まったとは言えない。今度の立命館大会には約600名の参加があったが、出席の返事を出して来ない人、出さずに来た人それぞれ多数、期限を過ぎての返事が毎日5~10通、中には大会が終ってから届くものもある始末、と。担当校の敷きは深い。

J・F・Kではないが、「学会が会員に何をするのかではなく、会員は学会に何ができるのか、を考えてもらいたい」と思うことである。

10月8日の総会における決定事項及び諸報告は次の通り。

【議決事項】

- (1) 平成7年度事業計画は承認されました。これに伴う収支予算書(案)は平成6年度決算との関係から、一部修正変更が起り得ることを確認した上で基本的に承認されました。
- (2) 次年度の大会開催校は、神奈川大学に決定しました。10月12日(土)・13日(日)の開催予定。

【諸報告及び関連事項】

- (1) 平成7年度の選挙管理委員は、次の各氏に委嘱されました。(※は重任)

| | | | |
|--------|----------------------------|--|--|
| (理事) | 佐藤 保 (委員長) | | |
| (評議員) | 竹田 晃・丸尾常喜 | | |
| (一般会員) | 市川桃子・謡口 明・*巨勢 進・*林 克・森 由利亜 | | |
- (2) 日本中国学会五十年記念事業委員会の構成及び委員は、次の各氏に委嘱されました。

| | |
|----------------|----------------------------------|
| 五十年記念事業委員会委員長 | 佐藤 保 理事 |
| 記念行事小委員会 | 伊藤 虎丸 理事 福井 文雅・松浦 友久 評議員 |
| 記念論集小委員会 | 内山俊彦 理事 (哲学・思想) 丸尾常喜 評議員 (文学・語学) |
| 学会五十年史編纂小委員会 | 興膳 宏 理事 |
| 日本中国学会概要編纂小委員会 | 内山 知也 監事 |
| 記念事業委員会顧問 | 伊藤 漱平 理事・前理事長 石川 忠久 理事長 |
- (3) 日本中国学会情報処理委員会の構成及び幹事は、次の各氏に委嘱されました。

| | |
|-------------------------|-----------|
| 情報処理委員会委員長 | 戸川 芳郎 評議員 |
| 第一委員会 (中国書データベース化小委員会) | 山田 敬三 会員 |
| 第二委員会 (漢字語漢字文書処理研究小委員会) | 松岡 榮志 会員 |
| 第三委員会 (漢字文献に関する小委員会) | 戸川 芳郎 評議員 |
- (4) 『学会報』第48集の編集担当校は、日本大学(責任者は今西凱夫会員)に委嘱されました。第48集の〈学会消息〉欄の原稿を、記入責任者から日本大学文理学部中国文学研究室(〒156 東京都世田谷区桜上水3-25-40)宛にお送り下さい。資料は平成7年1月から12月までのものとします。

『学会報』第48集の〈学界展望〉執筆校は以下の通りです。

| | |
|-----|---|
| 哲 学 | 東北大学文学部中国哲学研究室・代表：中嶋隆蔵会員 (〒980 仙台市青葉区川内) |
| 文 学 | 広島大学文学部中国語学文学研究室・代表：藤原尚会員 (〒724 東広島市鏡山1-2-3) |
| 語 学 | 大阪外国語大学中国語学研究室・代表：佐々木猛会員 (〒175 大阪府箕面市大字栗生間谷2734) |

著書及び論文抜刷などの資料を平成8年1月末日までに上記各研究室宛お送り下さい。掲載資料は平成7年1月から12月までのものとします。

〈学界展望〉につきましては、資料現物の送付とは別に、会員各自同封の用紙(二種類あり)により自己申告していただくことになっております。申告なさる方は、用紙に記入の上、同封の封筒を利用して明年1月末日までにご返送下さい。郵送費は各自ご負担願います。なお、申告が無い場合は、掲載漏れとなることがありますのでご注意下さい。また、研究論文目録として掲載不相当と思われるものは、執筆担当校の判断で割愛されることもあります。

- (5) 『学会報』の掲載論文公募について

締切日 平成8年1月31日(当日消印有効)

枚 数 本文・注・図版等あわせて400字詰原稿用紙55枚以内

要 旨 400字詰原稿用紙5枚以内を添付する。

応募者は『日本中国学会報』巻末の〈論文執筆要領〉を参照の上、これを遵守して下さい。(原稿は必ず郵送のこと。本部持込みは受理しません。)

- (6) 本年度の日本中国学会賞は、以下の会員が授賞されました。
- 哲学部門 白杉悦雄会員（京都大学大学院） 吾妻重二会員（関西大学）
 文学部門 上田 望会員
 理事長より賞状と賞金（8万円）が贈られました。
- (7) 下記の日程で日本学術会議哲学系公開シンポジウム「無常について」が開催されます。当学会からは堀池信夫会員が派遣され、講演されます。奮って御参加下さい。
- 日時 平成7年11月28日（火）午後1時～5時
 会場 日本学術会議大会議室（東京都港区六本木7-22-34 TEL03-3403-6291）

訃 報

会報第1号発行以後、次の3名の会員が逝去されました。

里道 徳雄（関東） 平岡 武夫（近畿） 工藤 豊彦（九州）
 総会の席上、上記の方々と会報第1号に掲載の方々に対し黙祷が捧げられました。

◎会費納入について

会費未納の方には振替用紙を同封致しますので、至急ご送金願います。なお、数年にわたって未納の方は特にご注意願います。（振替：00160-9-89927）

◎『学会報』送付停止について

会費未納が2年に達した方には『学会報』を送付致しません。会費納入が確認され次第、配布いたします。また、納入の際には、振込用紙裏面に未送付の『学会報』の号数をご注記下さい。

◎新入会の申し込みについて

次の新入会員の審査は平成8年度第一回理事会（5月開催）に於いて行われます。入会申込書は平成8年4月末日までにご送付下さい。

◎住所変更について

住所・所属機関等の変更は速やかにご通知下さい。

○下記の住所不明者について、御存知の方があれば、お手数でも御一報願います。

磯貝信二・丹野亮造・矢萩哲文・横内哲夫・崔保国・細川一敏・山崎順平・須貝美香・土井健司
 樋口勇夫・山下知樹・吉信幸江・李承妍・趙品莉・陳梅・堀江智子

平成7年度文部省科学研究費採択状況一覧

○総合研究(A)

中国江南における都市文芸形成の総合的研究(840万円) 尾上兼英(神奈川大学)

○総合研究(A)(継続)

類書の総合的研究(180万円) 加地伸行(大阪大学)
 中唐文学の総合的研究(220万円) 松本肇(筑波大学)
 転形期における中国知識人(280万円) 小谷一郎(埼玉大学)
 中国の方言と地域文化(200万円) 平田昌司(京都大学)

○一般研究(B)

黄宗羲の『明儒学案』成立に関する基礎的研究(380万円) 福田殖(九州大学)
 総合的漢字研究のための『説文解字』のデータベース化と、それを利用する基礎的研究(490万円) 藤山和子(お茶の水女子大学)
 中国現代文学の多元的展開と地域的特質に関する研究(240万円) 岡田英樹(立命館大学)

○一般研究(B)(継続)

中国古代中世における女性史関係資料についての歴史的思想史的研究(40万円) 下見隆雄(広島大学)
 ジェンダーの枠組による中国近現代史再検討のための基礎的研究(120万円)

中国知識人の精神構造の展開についての史的研究(70万円) 宮尾正樹(御茶の水女子大学)
 三浦秀一(東北大学)

○一般研究(C)

- 雲笈七籤の基礎的研究(80万円) 中嶋隆蔵(東北大学)
墨家と孟子の交渉についての思想史的研究(120万円) 吉永慎二郎(秋田大学)
西洋の哲学者による中国思想・宗教解釈の研究—17世紀と18世紀—(220万円) 堀池信夫(筑波大学)
画像資料を中心とした神仙思想の研究(40万円) 小南一郎(京都大学)
中国中世における信仰意識の形成についての基礎的研究(130万円) 山田利明(東洋大学)
中国中世期の伝統文化構造における「史」の学問の位置についての研究(170万円)

- 漢字法音法「反切」の実際的研究(150万円) 関口順(埼玉大学)
漢訳仏典に見られる口語の研究(90万円) 花登正宏(東北大学)
明清戯曲小説図説資料の整理研究(130万円) 長尾光之(福島大学)
唐代文学の研究—特に詞の源流に関して—(140万円) 大木康(東京大学)
中国山水文学の歴史地理学的研究(180万円) 戸倉英美(東京大学)
中国山水文学の歴史地理学的研究(180万円) 戸崎哲彦(滋賀大学)
清朝における科举制度と文学との関係についての研究(80万円) 高津孝(鹿児島大学)
十九世紀ヨーロッパに於ける中国文学の受容(90万円) 市川桃子(明海大学)
編集史的観点からの中国語音韻史資料の再検討(120万円) 遠藤光暁(青山学院大学)
1930・40年代を中心とした台湾における日本語詩の研究(70万円) 三木直大(広島大学)
中国西晋の詩と文章における隠逸・遊仙・山水(50万円) 佐竹保子(鳴門教育大学)

○一般研究(C)(継続)

- 近世江南鄉村社会における宝卷の役割をめぐる研究(60万円) 磯部彰(富山大学)
「童謡」と 惑星伝説の基礎的研究—後漢以後における讖緯説の展開(30万円) 串田久治(愛媛大学)
李叔同(弘一大師)の思想—馬一浮の思想との関連および豊子 の芸術への影響を中心に(30万円) 坂元ひろ子(東京都立大学)
中国における「物語」文学の盛衰とそのモチーフについて(30万円) 大塚秀高(埼玉大学)
現代中国における「諷刺芸術」の研究(60万円) 弓削俊洋(愛媛大学)
戯曲資料から見た金瓶梅の作者とその描かれた時代についての研究(40万円) 荒木猛(長崎大学)
明清官話音韻史の基礎的研究(40万円) 岩田憲幸(龍谷大学)

○奨励研究(A)

- 中国美学概念の哲学的・文学的な含意と構造の再検討(100万円) 中島隆博(東京大学)
隸古定尚書旧抄本の研究(100万円) 木島史雄(京都大学)
唐代道教思想史における「得道」・「聖人」観の変遷(100万円) 山田俊(熊本県立大学)
『三国志演義』諸版本における批評の総合的研究(100万円) 中川諭(東北大学)
ポスト文革期に於ける西洋モダニズム受容に関する基礎的研究(100万円) 牧陽一(埼玉大学)
中国で発行された英文紙誌の体系的な調査と研究(90万円) 西野由希子(お茶の水女子大学)
詩画一致の芸術観の形成過程に関する研究(100万円) 浅見洋二(山口大学)
客家語長汀方言訳「馬太福音伝」(1919年)の音韻に関する歴史的研究(50万円) 秋谷裕幸(愛媛大学)
中華民国期北京における読書様態と読者層の構造—同郷共同体を視座として—(50万円) 清水賢一郎(東京大学)

○国際学術研究〔代表者〕

- 東アジアにおける情報伝達と人間移動—南北の比較研究(600万円) 中嶋幹起(東京外国語大学)

○研究成果公開促進費

- 日本中国學會報(49万円)
宋代礼説研究(140万円) 山根三芳(徳島文理大学)
中国哲学とヨーロッパの哲学者(上)(90万円) 堀池信夫(筑波大学)
華嚴思想の研究(330万円) 石井公成(駒沢短期大学)
文選李善注引書攷証(索引)(210万円) 富永一登(広島大学)
増修互註礼部韻略切韻譜(80万円) 佐々木猛(大阪外国語大学)
酒令占卜にみる明清小説(150万円) 小川陽一(東北大学)
中国戯曲小説の研究(120万円) 日下翠(九州大学)